

● 草の根パートナー型

平成19年度第1回 採択内定案件

| <b>I. 提案事業の概要</b>  |   |
|--------------------|---|
| 1. 国名              | 中華人民共和国   |
| 2. 事業名             | 河南省駐馬店市の貧困村における自立支援プロジェクト   |
| 3. 事業の背景と必要性       | <p>支援対象の村の人口は約800人（住民登記していない子供などもいるため正確な人数は不明）、収入は農業（小麦、トウモロコシ）のみで、年間2,000～3,000元（30,000～45,000円）となっており、駐馬店市の8,000元（120,000円）に比較しても貧困の度合いが判る。さらに、貧困による栄養・衛生状態も悪化している。そのような環境の中、追い討ちをかけるように、少しでも収入を得ようと多くの村民が売血（一回の売血で600円～700円の収入を得ていたが、現在は実施していない）し、エイズに感染するなどして命を落とす村民が多い。現在、生き残った800人の村民の内200人が発病し死との恐怖と戦っている。</p> <p>2000年に、この村のことがエイズ村として世界中に知れ渡ったがため、健康者や若者はこの村出身と言うだけで、職場を奪われ結婚もできないなどの偏見と差別を受けている。</p> <p>エイズ撲滅対策は、薬やお金などの支援も必要だが、それ以上に貧困村が売血や売春などに走ることなく自立し生きる希望と誇りが持てる村となるための技術支援が必要ではないかと考えるようになった。</p> <p>文楼村で成功させることで、他の多くの貧困村のモデルとなり、貧困対策と同時にエイズ対策に貢献できると考える。</p> |
| 4. 事業の目的           | <p>土壌が劣化し主な収入源である農業での収穫量が激減し、さらに売血によってエイズに感染した河南省駐馬店市文楼村の村民達が望む『エイズの恐怖に打ち勝ち、未来に希望が持てる環境共生型の自立できる村創り』を実現させるため、その為の技術指導を中心の支援活動を行う。</p>   |
| 5. 対象地域            | 河南省駐馬店市文楼村  |
| 6. 受益者層            | 貧困村（文楼村）の村民   |
| 7. 活動及び期待される成果     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土壌改良技術と農業技術の指導<br/>化学肥料で劣化した土壌を改良し村民の食料の自給と余剰作物（有機作物）の販売、飼料用作物の栽培を持続的に村民で行えるようにする。</li> <li>2. 家畜の飼育指導<br/>飼料用作物の生産と併せて家畜の生産を行い、村民の食料の自給と余剰肉の販売が行えるように効率的な飼育指導を行う。</li> <li>3. 持続的な循環型社会の実現に向け、未利用有機資源の再利用技術の指導<br/>食品残さや農畜産廃棄物も堆肥などとして有効に再利用するなど持続可能な循環型社会に向けた適正技術・知識を普及する。</li> <li>4. 農業・畜産業の製造・販売体制の創設<br/>上記の農業・畜産関係の指導者、専門家の育成とそこで実践する業が経済的且つ効率的に行える体制を創設し、余剰作物、食肉を他地域へ販売し収入が得られるような体制づくりを行う。</li> </ol>  |
| 8. 実施期間            | 2008年8月～2010年7月（3年）   |
| 9. 事業費             | 28,301千円（予定）  |
| 10. 事業の実施体制        | <p>実施主体（技術指導）：（株）アジア環境研究所 環境共生型の貧困村自立支援室<br/>対象地域：村（文楼村）の運営組織 河南省慈善総会</p>   |
| <b>II. 実施団体の概要</b> |   |
| 1. 団体名             | 株式会社アジア環境研究所 環境共生型の貧困村自立支援室<br>（NGO設立準備室）   |
| 2. 活動内容            | <p>営利を目的とせず『環境共生型農畜産業の技術指導を中心に貧困村の自立に向け』支援活動を行い、将来NGO化を目指した活動を行っている。</p>  |